

令和4年度第2回八戸市魚市場運営審議会

- 1 日 時 令和5年2月20日(月) 午前11時30分
2 場 所 八戸グランドホテル 2階 ローズコート
3 出席者 (委員)
- | | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 田中 哲 | 澤藤 孝之 | 阿部 寿一 | 松森 成子 |
| 飯山 眞也 | 尾崎 幸弘 | 福島 哲男 | 川村 嘉朗 |
| 野田 一夫 | 風張 信一 | 藤村 幸子 | |

(事務局)

佐々木八戸市副市長	茨島水産事務所長	高館水産事務所副所長
白川主幹	須藤主査	鬼柳主事
中里主事		

4 議事内容

- 司 会 定刻となりましたので、只今より、令和4年度第2回八戸市魚市場運営審議会を開催いたします。

審議会に先立ちまして、委員に異動がございましたので、ご報告させていただきます。八戸商工会議所専務理事の山内隆委員が退任され、後任として八戸商工会議所中小企業相談所長の北山和久様へ委嘱することとなりました。

なお、北山様は本日、所用により欠席となっております。

それでは、開設者であります八戸市長から御挨拶を申し上げます。

(市長挨拶(副市長代読))

- 司 会 続きまして当審議会、田中会長から御挨拶をお願いいたします。

(会長挨拶)

- 司 会 ありがとうございます。会議に入ります前に、副市長は公務の都合により、ここで退席させていただきます。

(副市長退席)

- 司 会 それでは、本日の出席委員についてご報告いたします。

本日は、委員総数15名のうち、11名に出席いただいておりますので、八

戸市魚市場運営審議会規則の規定により、会議が成立することを報告いたします。

それでは、これより案件に入ります。会議の議長は、審議会規則により、会長が務めると定めておりますので、田中会長よろしくお願いたします。

●議 長

それでは次第に従いまして、これから議題に入りたいと思います。

報告事項の「令和4年水揚げ実績報告」について、事務局より説明をお願いします。

●事 務 局

それでは、令和4年八戸市魚市場水揚げ実績について、お手元の資料に基づき、ご説明申し上げます。右上に資料1と書かれている資料をご覧ください。まず、令和4年1月1日から12月31日までの八戸市魚市場における水揚げ実績でございますが、開場日数は、280日、水揚げ数量は、2万8,876トンで、対前年比65%、1万5,596トンの減となりました。水揚げ金額は、99億8,159万5千円で、対前年比115%、13億378万4千円の増となりました。

続きまして、主な漁業別の内訳ですが、表をご覧ください。こちらは漁業別に、数量、金額、平均単価について令和4年と令和3年を比較したものでございます。まず、いかつり漁業の数量につきまして、主力である冷凍のスルメイカやアカイカの水揚げが前年より減少したことから、いかつり漁業全体の数量は4,466トンで、対前年比75%、1,465トンの減となっております。

金額につきましては、数量減少を見越したスルメイカやアカイカの高騰に伴い、合計で44億6,592万円、対前年比131%、10億5,288万4千円の増となっております。また、いかつり漁業の八戸市魚市場全体に占める割合である構成比は、数量で15%、金額で45%となっております。次に、大中型旋網漁業では、八戸近海でまとまった水揚げがなく、主力のサバやイワシの数量が前年を大きく下回ったことから、全体の数量は、1万2,642トンで、対前年比47%、1万4,401トンの減となり、金額は、合計で8億1,873万円、対前年比52%、7億5,759万3千円の減となっております。また、大中型旋網漁業の八戸市魚市場全体に占める割合は、数量で44%、金額で8%となっております。次に、機船底びき網漁業では、主力のスケトウダラ、スルメイカ等の数量が前年を上回り、全体の数量は、9,737トン、対前年比129%、2,168トンの増となっております。金額につきましては、比較的単価の高いスルメイカの数量増加により、合計で36億3,980万1千円、対前年比141%、10億5,569万7千円の増となっております。また、機船底びき網漁業の八戸市魚市場全体に占める割合は、数量で34%、金額で36%となっております。

次に、右上に資料2と書かれている資料をご覧ください。令和4年の全国主要市場の水揚げについてご説明いたします。こちらの表は、当市が調査を行った主要22市場のうち、水揚げ数量・金額の上位の漁港を示しております。八戸漁港の順位でありませんが、数量は前年から2つ順位を下げまして14位、金額は前年と同じく15位となっております。

ここで資料の訂正をお願いいたします。資料1の水揚げ金額でございますが、上から三つ目の丸の金額が、99億8158万5千円となっておりますが、正しくは99億8159万5千円となります。訂正をお願いいたします。

以上で報告を終わります。

●議 長 ただいまの事務局からの説明について、御意見等ございませんでしょうか。

(「なし」の声)

●議 長 よろしいでしょうか。それでは次に、「令和3年度市場別収支概況」について、事務局より説明願います。

●事 務 局 令和3年度市場別収支概況についてご説明申し上げます。右上に資料3と書かれている資料をご覧ください。この資料は、「1. 魚市場運営に係る収支」、これは市場使用料などの収入や、光熱水費等の支出など、魚市場運営に直接的に係る収支であり、「2. 魚市場運営その他収支」は、前年度からの繰越金等の収入や、人件費等の支出など、魚市場運営に間接的に係る収支となりますが、この直接的収支と間接的収支の2つに区分して作成しております。それでは、「1. 魚市場運営に係る収支（直接的収支）」から順にご説明申し上げます。

歳入につきましては、水揚げ金額にかかる市場使用料、貸事務所等の使用料及び光熱水費等の業者実費負担分で、第一魚市場から第三魚市場の3市場合計で、5,275万円となっております。歳出につきましては、光熱水費、修繕料、施設維持に係る委託料等で、3市場合計で1億6,825万8千円となっております。収支はマイナスの1億1,550万8千円となっております。

次に、「2. 魚市場運営その他収支（間接的収支）」についてでございますが、歳入につきましては、入場許可手数料、自動販売機設置に係る財産貸付収入、前年度からの繰越金等で、3市場合計で、2,375万3千円となっております。歳出につきましては、人件費、事務に係る諸経費、施設整備等の償還に係る公債費等で、3市場合計で、9,984万9千円となっており、収支はマイナスの7,609万6千円となっております。続きまして、資料3の2枚目、一番上に「1～2の合計」と書かれている資料をご覧ください。最終的な合計といたしまして、歳入が7,650万3千円、歳出が2億6,810万7千円で、収支はマイナスの1億9,160万4千円となっております。そして、2枚目の資料の下から2行目の、一般会計繰入金というところに記載しておりますが、2億1,519万円を、一般会計から魚市場特別会計に繰り入れをし、さきほどの収支との差額となる2,358万6千円を、次年度に繰り越ししているという状況となっております。

市といたしましては、品質・衛生管理の高度化等により、水揚げ金額の増加を期待するとともに、今後も施設の効率的な運用に努めてまいりたいと考

えております。以上で、令和3年度市場別収支概況の説明を終わらせていただきます。

●議 長 ただいまの事務局からの説明について、御意見等ございませんでしょうか。

(「なし」の声)

●議 長 以上で予定していた案件についての審議は終了となりますが、その他、委員の皆様から御意見等ございませんか。

●委 員 それでは私から昨年からはまった八戸水産アカデミーについて、どういったことをやっているのか説明をさせていただきます。

去年からですけれども、水産物が取れないという形が特にひどくなってきました。ここ7、8年段々と少なくなっておりましたが、特に去年、サバが最後まで水揚げがなく、イカもたくさんとれているというわけではなく、いわしも少なかったと思います。獲れない原因とすると、海の温度であるとか、海流であるとか、そういったことが、八戸港にとって、あまりいい形になっていない。こういった状況で、自分たちとして何をしていけばいいのかと考えた時に、資料やデータを揃えるために、この水産アカデミーでは、大きく3つのテーマを設定し、1年間で4回開催しました。1回目は、八戸のこれまでの水産業の歴史ということで、八戸漁業指導協会の熊谷拓治さんに説明をしていただきました。2回目は養殖業というものが、水産庁からするとどういった位置づけの産業になっていて、どう考えればいいのか、3回目は新たな資源管理としてTAC管理を中心に説明していただきました。先日2月14日には4回目として水産庁漁政部加工流通課から来ていただいて、水産バリューチェーンの構築に向けてということで、お話をいただきました。

3つのテーマというのは、どこにいつ何を獲る、いわゆる漁業者にとっての考え方が一つ。また二つ目は、養殖業というものが、八戸として、青森県としても、どういう風に考えていくべきかということ。三つめはバリューチェーンの構築に向けてという内容になりましたが、獲れた魚をどこに売る、もしくはどういった形で加工する、その上で、これを誰に、どう渡せばどれだけおいしくなるのかというお話をしていただきました。魚が獲れなくて大変困ってらっしゃる漁業者にしても、加工屋さんにしても、流通業者さんにしても、どうやっていけばいいのか、何をしていけばいいのか、と悩んだ時に、水産アカデミーでの話や、提供された資料、データなどを活用できるようにできればいいなと考えています。また、水産アカデミーはこれで終わりではなく、今後、専門部会を作って、具体的にどう進めていけばいいのかと議論をしていければいいなと今の時点では考えています。皆様ご理解いただければと思います。以上です。

●議長 ありがとうございます。
そのほかによろしいでしょうか。

●委員 八戸の魚市場を使っている近隣の漁業者からの意見ですが、ヒラメやサケは、魚市場に持っていくと協力金というのを支払っています。その協力金はどのように使われているかという、ヒラメだと稚魚を作って、その稚魚を海にもって行って放流する。そういう事業をやっています。今、魚市場へ水揚げしているのが、漁協に所属している船はもちろん、漁協に入っていないけれども漁船登録をしている人、そのほかにレジャー用の船など、そういう方々も魚市場に荷揚げしています。漁協に入っていない方が荷揚げした段階で協力金を支払っているかという、支払っていません。漁協に入っている漁業者は協力金を支払っています。県の漁船登録の流れは詳しくは不明ですが、漁協に所属していない漁船登録をしている船は協力金がとられていない。漁協の中でも、これだと漁協に入らないで漁業やっていたほうが楽だ。協力金も払わなくていい。組合辞められるなら辞めたい。そういう話も出てきます。市場のほうの体制を考えてもらわないと、将来的には、漁協の存続にも関わってくると思いますので、そのところを考えていただきたいと思って意見として出させていただきます。

●議長 ありがとうございます。

●事務局 今のご意見について、ヒラメとかサケとかの協力金を、漁協に所属していない漁業者、漁船をもっていて漁業活動をしている方々から徴収して納めてもらえないかという話だと思います。漁船の登録は県、水揚げの金額というのは卸売業者と相談しないといけないと思いますので、県や卸売業者と相談し、どういう形で実現できるか話を預からせていただきたいと思います。

●議長 ありがとうございます。
そのほかありますかでしょうか。

(「なし」の声)

●議長 以上で予定していた案件についての審議は終了となります。これをもちまして議題を終了させていただきます。進行を事務局にお返しいたします。

●事務局 それではこれをもちまして、本日の八戸市魚市場運営審議会を閉会させていただきます。委員の皆様には、御多忙中、御出席いただきまして、ありがとうございました。